

年間第5主日の説教

金 大烈 神父 2009年2月8日(日)

《“危機”は“チャンス”》

やはり若さはいいですね。今日朗読をしてくれたインドネシアの青年達の声は、大きく響き若さを誇っている様でした。今日は説教の代わりに、私達がお互いに話し合った方が良いのではないかと思う事がありますので、それを述べさせていただきます。

皆様も肌で感じられていることだと思いますが、世界的に景気がものすごく悪くなって、色々困っている人々が本当に多くなりました。特にこの日本で、スバル(富士重工業)や三洋電機があるこの地域で、群馬の中でも私達の教会のこの地区で、色々な人々、特に外国人の人々、家族が仕事を失ってものすごく悩み苦しんでいる姿が、具体的に目に見えています。ですから、私達はどの様な心で、どの様な姿勢で、どの様な態度を示すべきか、皆様と分かち合いたい気持ちでいます。現在の状況から判断すると、予想がつかない事では無く、今年は益々困っている人が増えて来ると思います。先週、先々週と教会に助けを求めて来る人が現れ始めました。ですから、このカトリック太田教会がどの様な心で、その人達に対すべきかを考える事をお願いしたいと思います。

昔から“危機”は“機会・チャンス”になるという言葉があります。そういう意味で私達は救しの秘蹟を受けても、償いを行ってもまだ間違いはあると思います。この“危機”を私達が神様にまじめに償う“機会”として“チャンス”として受け入れれば、私達は心を合わせる事が出来るのではないかと思います。

今、評議会が中心になって、各地区、多国籍のグループの集まりを通して、色々な対策に取り組もうとしています。来週、教会の総会の中でも発表されると思いますが、教会の会計についても福祉関係の事を頭において考えます。財政的にも支えが必要であれば、私達教会が支えていける様に考えています。しかしその“行い”よりも私達に必要なとさえしているのは、“心の態度”ではないかと思っています。その為には何よりも今日の福音で、使徒パウロが第2朗読の中で話された言葉が必要であると思います。『弱い人に対して、弱い人の様になりました』。これは相手の立場にならなければ、絶対その人を理解出来ないという事です。ですから、私がある日突然、若いにもかかわらずクビになった、仕事を失ったとすれば、私はどうなるか。その様な具体的な感覚で困っている人を見なければならぬと思います。今日のミサ後、教会委員会の中で「バザーやミニバザーをしましょう。」とか「寄付金を求めましょう」等、具体的な話がでると思います。そこで出された提案や決定された事が、教会の名で発表されたら、私達は自分の事に協力しましょう。そして心を込めて一緒にやってみましょう。そうすれば“危機”が本当“チャンス”になると私は信じます。そして今まで感じられなかった事があれば、それも感じられる様になると思います。

この共同体の意味は“交わり”です。“交わり”が無ければ、信者だ、信者だと言っている、信者らしくない生活をしている事になってしまう事を、私達はいつも意識しましょう。まず、“心”から近づきましょう。そしてこの教会を探して尋ねて来る人を待つのではなく、私達から先に探しに行きましょう。

それには、各国別にその状況を把握する事が必要ではないかと思っています。大泉・太田地区の中で、自分の周りで困っている人がいるかどうか、関心を持って調べましょう。その後、どうすればその人々が立ち上がれるのか、それを考えましょう。そうすれば神様は必ず助けて下さると思います。本当に今年は厳しくなると思います。ある意味できつくなると思います。しかし私達は心を合わせて祈りながら、何とかしようと思えば必ず道は開かれると思います。皆様がんばりましょう。今年“あの人の痛み”では無く、“これは自分の痛み”だという意識が何よりも必要ではないか思います。そしてそ

れが出来れば、私達はちょっとお腹がすいても幸せを感じる事が出来ると思います。私達は一つの家族であり、国籍には意味がない。男女の別も意味がない。持っている、持っていないも意味がない。ただ私達は神様のみ旨に一つになった家族として、何とかしなければならぬという意識だけを持ちましょう。

ありがとうございました。